鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

第55号　H22．10．21

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

10月の行事予定

10			
1	金	後期始業式・中掃除 大学入試センター試験出願(～10/14)	
2	㊏	悠学講座⑤ スクールカウンセリング③	
3	㊐		
4	月	全校朝会 文化祭準備期間（45分授業木まで）	
5	火		
6	㊌	文化祭代休日	
7	木		
8	金	文化祭準備 中掃除(30分) (1・2年全カット，3年平常校時) 実力考査時間割発表，学校安全の日	
9	㊏	文化祭	
10	㊐		
11	㊊	体育の日	
12	火		
13	水	体育系部活動生健康診断(15:30～)	
14	木	体育系部活動生健康診断(15:30～)	
15	金	避難訓練	
16	㊏	3年進研記述 第2回英検一次試験	
17	㊐	3年進研記述	
18	月	実力考査（1日目） 1，2年PTA	
19	火	実力考査（2日目）	
20	水	立会演説会，生徒総会	
21	木		宅習時間調査
22	金	出前講義(1，2年)	
23	㊏	悠学講座⑥　3年全統記述 スクールカウンセリング④	
24	㊐	3年全統記述 Z会東大説明会（午後）	
25	月	学年朝会 いじめ問題を考えるLHR	いじめ問題を考える週間
26	火	実力考査成績締切 1，2年PTA欠席者会	
27	水	三年生を激励する会	
28	木		
29	金	中掃除	
30	㊏	1，2年進研記述	
31	㊐	2年進研記述	

鶴丸高校生という「意識」

生徒指導課副主任　和田　倫周

先日の新聞の投稿記事は、鶴丸高校関係者の心を温めてくれた。

今夏、福岡市内のホテルに宿泊した老夫婦が、飛行機の出発時刻を気にしながら混み合う朝食会場で順番を待っていると、本校の一人の女子生徒が呼びかけて、二人に順番を譲ったという。おかげで飛行機の時間にも間に合い、高校生の心遣いに感動したという感謝の投稿だった。

殺伐とした世の中、自分のことで精一杯で、自分だけがよければという利己的な風潮が蔓延している現代社会にあって、このエピソードは多くの読者に感動を与えた。だからこそ、今でも記事に対する多くの反響が寄せられている。

このエピソードばかりでなく、これまでに鶴丸に勤務してきた中で、生徒の行動を褒め称える出来事を数多く耳にしてきた。

その中でも特に印象深かったものを紹介したい。

彼は野球部に所属していた。不器用であったが、実直な男だった。お母さんと二人で暮らし、いつも母親のことを気遣う親想いの生徒だった。高校から始めた野球は決して上手いとは言えなかったが、練習には休むことなく参加した。最後の夏の大会ではレギュラーにはなれなかったが、応援団長としてスタンドで声を嗄らした。

その彼がある日、下校の際に毎日通る西田橋を渡っていた夕方のことだ。一人の女子中学生が、真剣な面持ちで橋の真ん中から川を眺めていた。ただならぬ雰囲気を感じ取った彼が、声を掛けようと自転車を降りようとした時、その女子中学生は橋の欄干に登り始めた。いろいろなことを悩んだ末に身を投げようとしたらしい。もう少しで川に落ちるところで女子中学生をつかまえた彼は、思い詰める彼女の話を優しく聴き、自分の体験談も交えながら励ましたという。そして1時間かけて歩きながら自宅まで送り届け、保護者を安心させたそうだ。後日、女子中学生の担任がお礼の連絡をしてきて分かったエピソードだ。

他にもある。下校の際に正門で一礼している鶴丸高校生の姿を車の中から見た会社社長が、鶴丸OBの社員をつかまえて、「お前はすごい学校を卒業したんだな」と手放しで賞賛したこと。長い横断歩道を渡る途中で信号が赤になってしまった老女を見かけた本校の男子生徒が、自転車を乗り捨てて駆け寄り、荷物を持ちながら歩道を渡りきった後に、待たせた車に深々とお辞儀をしたこと。

どれも本校生からでなく、その出来事を直接体験した、目にした人から聞いたものばかりである。

彼等は人目を気にして行動したのではない。恥ずかしさを振るい棄て、勇気を持ち、自分の信念に従って行動したのである。信念を持って行動する人の姿は美しい。だからこそ、それを目にした人の心を打ったのではないか。

私が耳にしたすばらしいエピソードの中の本校生は、この学校で過ごす間に、Ｐｏｗｅｒ　Ｏｔｈｅｒｓの精神が植え付けられていたのだなと感じた。いや、それは自然に植え付けられたものではなく、本人が「意識」することで身につけたものだと思う。「意識」し続けることで身につけた「人柄」がこのエピソードの端々に表れていると思う。

これだけ多くのエピソードが私の耳に入ってくるということは、本校が注目されていることに他ならない。地域の方々、OB、OGのみなさんは、本校を愛し、いつもいろいろな意見をくださる。現役生である君たちは、それだけ愛される学校に在籍している「意識」を持っているか。

バッジの付け忘れや制服の着こなし、髪型など、身なりのことで注意をすることがある。その時、私はいつも「この生徒の姿をOB、OGのみなさんが見たらどう思うか」と心の中で自問する。自らを客観視して、本校生たる身なりができているか、その「意識」はあるか？

現役閣僚をはじめとする、数多くのすばらしい諸先輩方が旅立っていった本校の歴史に泥を塗ってはならない。

本校生であるからこそ、見た目ではなく、中身を磨く努力、文武両道をどちらも100と100で実現させる努力を積み重ねなくてはならない。

まずは「意識」をすること。それは教えられたか、強制されたか、自発的なものか、そのきっかけは問題ではない。大切なのは、その「意識」を継続することなのだ。継続されるその「意識」が日常の「行動」に反映され、「行動」を続けることが「習慣」になる。身についた「習慣」はその人の「人柄」となって表れる。スマートな習慣が身についている人は魅力的である。

今の君たちに、歴史と伝統に支えられている鶴丸高校の現役生としての「意識」はあるか？是非、自問自答してほしい。そして、見てくれではなく、中身を磨いて、魅力的な人間となってほしい。

体育祭を終えて

前期生徒会　体育局局長
23R　西　周平

第62回体育祭を無事に終えることができて、ほっとしているというのが今の正直な気持ちだ。今年の体育祭は大きな事故もなく、各学年の応援団を中心に素晴らしい盛り上がりを見せ、本当に良いものになったと思う。

6月にクラスマッチを終え、体育祭に向けての準備を始めた頃、心の中には不安が渦巻いていた。昨年度も生徒会の体育局補佐として運営に関わったが、先輩方の苦労する姿や、予行や本番当日で大変だったという記憶が頭に残り、このような仕事が自分にやり遂げられるか心配になっていた。

しかし、補佐の二人が自分を大きく助けてくれて、準備を順調に進めることができた。二人の励ましがなくては、やり遂げられなかったと思うと、本当に感謝している。また、なによりも、リレーや綱引きに燃えるクラスや、放課後に声を張り上げて演舞する応援団、朝からドリームの練習をする3年生を目の当たりにして、こんなにも体育祭に燃えている生徒たちがいるのだから、今年の体育祭は必ず良いものになると確信した。

そして体育祭当日。多くの人の努力と熱気に包まれた体育祭は素晴らしかった。自分自身もこの貴重な経験によって、自分自身と向き合い、成長することができたと思う。この行事に関わった方々に感謝に気持ちを忘れないでいたい。

柳田理科雄さん来校

「空想科学読本」の著者であり、本校の卒業生である柳田理科雄さんが本校図書館（悠学館）を訪ねていらっしゃった。司書や図書委員との高校の図書館や高校生の読書傾向についての懇談の後、つもったにない機会なので、ミニ講演会を作っていただいた。およそ30名の生徒が、作中で見られるような突拍子もない、しかしとても興味を引かれる柳田さんの空想科学の世界に魅せられ、皆熱心に、時には大笑いしながら聞き入った。

その中で、母校の後輩へのメッセージとして、学生時代のことを話してくださった。印象的だったのが、「大学に入ればなにかが変わるのだと思っていたけれども、そうではなかった。大学とはただ機会が増える場所だ。どんなに素晴らしい大学に行っても、そのチャンスを捉えなければ何も変わりはしない。」という話だ。大学に行くことがゴールであっていけない。とても大切な言葉として、胸に刻んでほしい。

秋を探して…

暑さの厳しかった夏も終わり、朝夕は随分と肌寒くなって、すっかり秋めいて来ました。校内でも彼岸花が咲き、柿が実り、銀杏の葉が色づきだしています。空の雲も秋のかたちをしています。その合間にこれらを探して、季節の移り変わりを感じてください。

今後は急な冷え込みもありますので、風邪・インフルエンザの予防に努めましょう。「うがい・手洗い・睡眠・栄養」が大切です。

（編集者）

校内の柿